

# 室堂平を覆う大気は美女平の大気とは違うことが多い

大気を垂直方向に見るといいくつかの層にわかれます。このうち、地表から高度1000m～2000mにかけての大気を大気境界層と呼びます(図1-9)。大気境界層の上には自由大気と呼ばれる層があります。大気境界層の大気では、国内起源など、比較的近くにある汚染源の影響が見られますが、気象状況によってはアジア大陸起源の汚染が見られることがあります(私たちの生活が変える地球環境7参照)。大気境界層の上にある自由大気では、近くの汚染源よりも、アジア大陸など遠くにある汚染源の影響が見られます。

立山では、天狗平(標高2310m)や室堂平(標高2450m)では自由大気内にあることが多く、美女平(標高970m)では大気境界層の大気の中にあることが多いようです。弥陀ヶ原は大気境界層と自由大気の境界面の高さによって包まれる大気が異なるようです。

室堂平や天狗平から眺めることのできる雄大な雲海は標高1630mの弘法平から1930mの弥陀ヶ原あたりにかかることが多いようです(図1-10)。雲海の雲は大気の境界にできる場合が多く、雲海の下側に大気境界層の大気、上側に自由大気があると考えることができます。

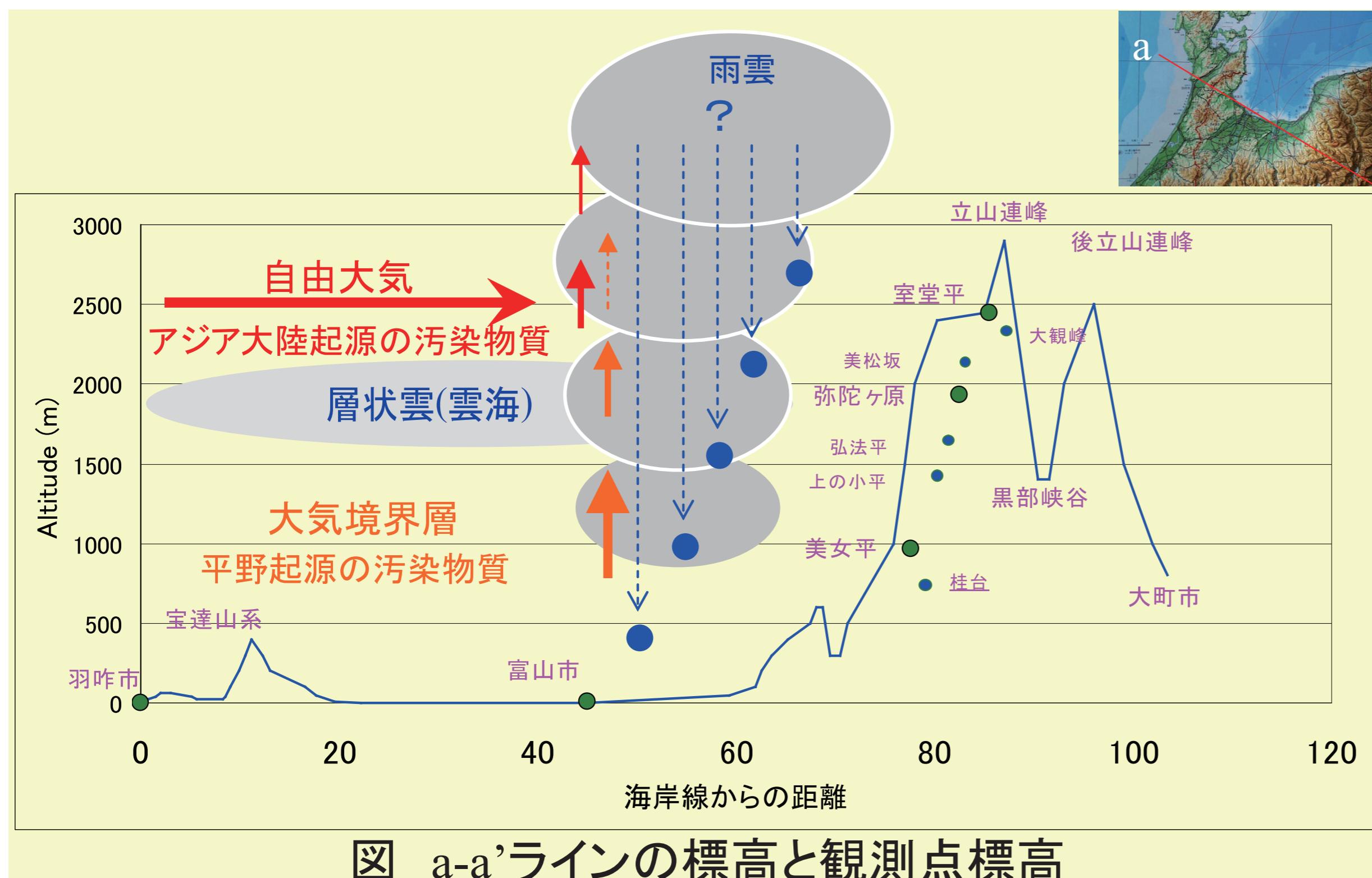


図1-9 立山の高さと大気の断面



図1-10 立山にかかる雲海。水平線上に島のように見えるのは石川県の白山です。